

# お薬のしおり

## お薬の種類と形

No.125 (H24.7)

東京医科大学病院 薬剤部

みなさんは、お薬と言われてどのような形を思い浮かべますか？お薬の形は、内服薬、注射薬、外用薬の3つの分類によってある程度決まってきます。

内服薬とは、経口により用いられる薬で飲み薬を意味し、内用薬とも言います。主に胃や腸で吸収され、効力を発揮するように出来ています。

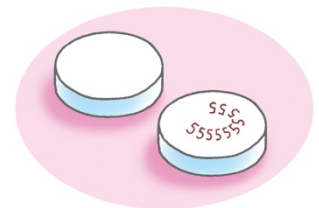
注射薬は病院内で使用される場合が多く、あまり患者さんが手に触れることはないお薬です。しかし、インスリンなど自分で注射する一部の注射薬は、医師の処方せんのもとに調剤を行ない患者さんに手渡されます。

外用薬とは、内服薬および注射薬を除く、人体へ直接的に用いる全てのお薬として定義されています。このため、その種類も多岐にわたり、中でも、日常的に使用される外用薬には、各種の塗り薬ぬりぐすりや貼り薬はりぐすり、点眼薬なじなど馴染みの深いものが数多くあります。

このようにお薬には多くの種類や形がありますが、今回は一番身近な内服薬についてもう少しお話しします。「熱が出て風邪っぽいな」、「花粉症で鼻水が辛いな」と感じた時に、ドラッグストアで購入されるお薬のほとんどが内服薬になります。内服薬はさらに大きく3種類に分けることが出来ます。①錠剤・カプセル剤②粉薬③水剤ですが、その中でもいろいろな形のお薬があります。下記に内服薬でもよく飲まれるお薬の形の一部を紹介します。

### ①錠剤：経口投与する一定の形状の固形のお薬

- ・口腔内崩壊錠こうくうないほうかいじょう ⇒ 口腔内で唾液だえきまたは少量の水で崩壊することにより飲みやすくしたもの
- ・舌下錠ぜっかじょう ⇒ 舌の下で速やかに溶かして口腔粘膜から吸収させるもの
- ・チュアブル錠 ⇒ 噛み砕いて服用するもの
- ・トローチ剤 ⇒ 口腔内でゆっくり溶かして、口腔、咽頭いんとうなど



に適應するもの

- ・カプセル剤⇒カプセルに充てんまたはカプセル<sup>きざい</sup>基剤で包んだもの

## ②粉薬

- ・散剤⇒さらさらした粉状のもの
- ・顆粒剤⇒散剤より<sup>かりゅう</sup>粒子が大きい<sup>りゅうし</sup>粒<sup>つぶじょう</sup>状にしたもの
- ・ドライシロップ剤⇒水を加えるとシロップ剤となる粒状又は粉末状のもの

## ③水剤

- ・液剤⇒液状または<sup>りゅうどうせい</sup>流動性のある液体
- ・シロップ剤⇒糖類または甘味剤を含む液体
- ・懸濁剤⇒有効成分の粒子が<sup>けんたく</sup>均質に<sup>きんしつ</sup>分散した<sup>ぶんさん</sup>液体

## ◇内服薬の剤形と飲み方

お薬の中には、同じ成分でも錠剤・粉薬・水剤など剤形が沢山あるものもあります。小さい子供や老人などの中には、錠剤をうまく飲み込めない場合がありますので、粉薬で水とともに飲む方が飲みやすいという人がいます。逆に、粉薬より錠剤のほうが飲みやすい人もいます。このように、年齢や患者さんの状態などを考慮してお薬の形はいろいろ用意されているのです。

錠剤が飲みにくいと思っても個人の判断でお薬をかみ砕いたり、カプセル剤を開けて中身を出すことはしないでください。お薬には腸内で溶けるように設計されているものや有効成分がゆっくりと放出され長時間効果をあらわすものがあります。また、砕くことにより湿気を吸収しやすくなるものや光により有効成分が分解してしまうものもあります。こうした理由から基本的には錠剤の粉砕やカプセル剤の開封は行われません。しかし、錠剤やカプセル剤が飲み込めない場合や用量が<sup>はすう</sup>端数である場合(例：1回0.25錠)など粉砕や開封がどうしても必要な場合があります。そうした時には薬剤師の製剤学的特徴や安定性などを確認した上で薬剤師が医師の指示のもと錠剤の粉砕やカプセル剤の開封を行っています。

このように飲み方により、お薬の効き目が違って来る場合もありますので、飲み方を正しく守って服用して下さい。また、飲み方について分からない点がある場合は薬剤師までご相談ください。

